

人と野良猫

1190012 市川 明日香
指導教員 吉田 晋

システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. はじめに

野良猫は、不特定多数から可愛がられる一方で、糞害や鳴き声といった点で害獣とみなされ嫌われてしまうこともある。そこで、人だけではなく野良猫の住処ともなるような建物を設計する。

2. 野良猫

2.1. 野良猫の観察

高知工科大学周辺の野良猫を観察した結果、以下のことが必要と考える。まず、季節に合わせた快適な居場所。2つ目に何かあった際に逃げることでできる場所にする。3つ目に餌付けする場所を固定する必要がある。

2.2. 猫の寸法

図1に猫の基本的な寸法を示す。

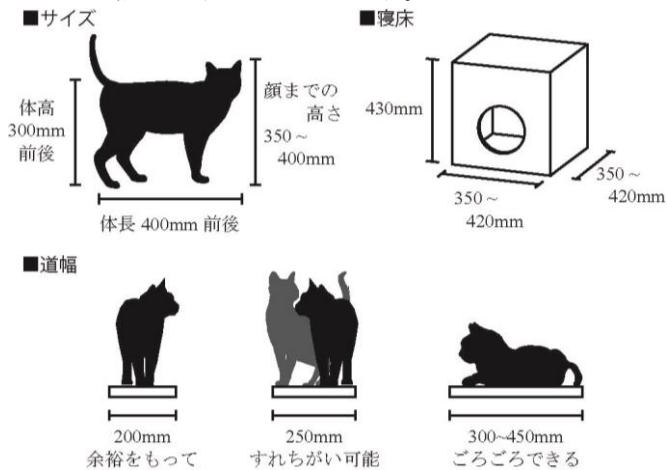


図1. 猫の基本寸法

3. 対象敷地

高知県香美市土佐山田町山田島の敷地を対象とする。図2に対象敷地を示す。面積は約1200平米。県道237号に面しており南西には水路を挟んで堤防がある。住宅群の外れにあり、民家がまばらになってくる位置である。



(国土地理院の電子地形図に対象敷地を追記して記載)

図2. 対象敷地

4. 提案内容

4.1. 建物仕様

人と野良猫が同じ場所で上手く一緒に暮らしていくことのできる仕掛けを持った建物を目指す。その為、人と野良猫の暮らす集合住宅を設計する。

4人家族を想定した住宅が6戸入った集合住宅とし、野良猫は12~24匹を想定する。駐車スペースは12台とする。

4.2. ゾーニング

図3のように人と猫の空間を分ける。

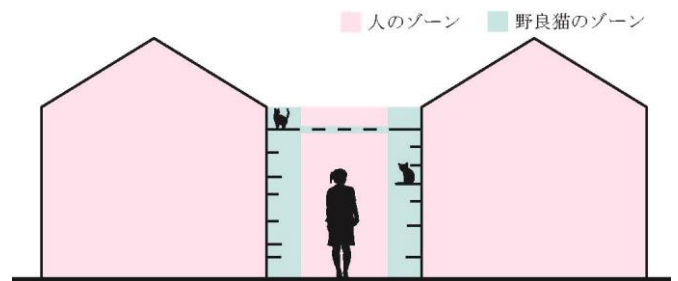


図3. ゾーニング

4.3. 人の空間

図4が全体図、図5が配置図、図6が1階から3階の平面図である。

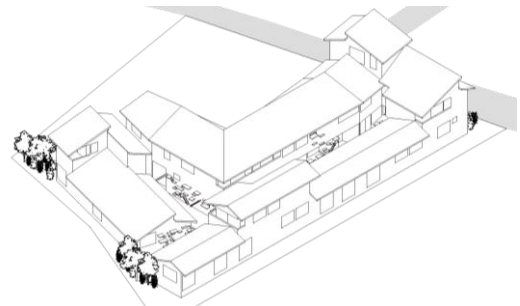


図4. 全体アイソメトリック図



図5. 配置図

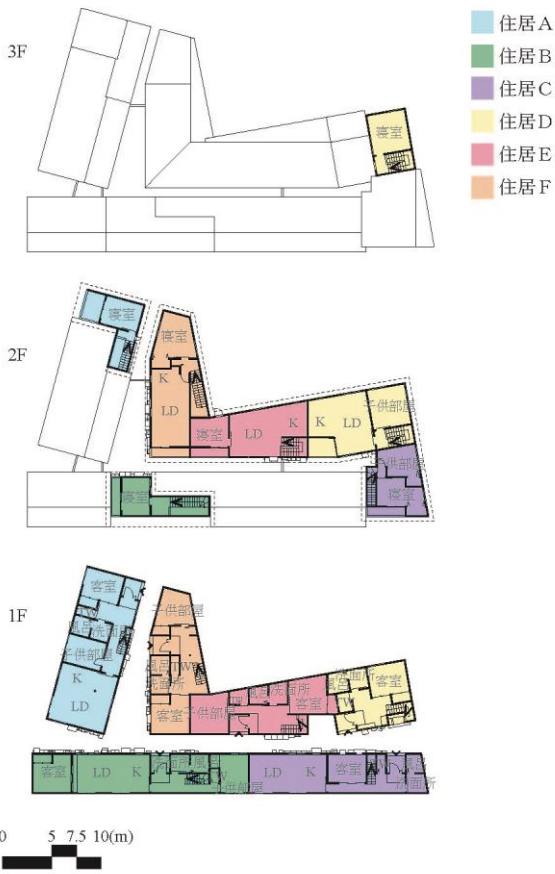


図 6. 平面図

4.4. 野良猫の空間

図 7 のように野良猫の主な動線と寝床などの主要なスペースの位置を決める。

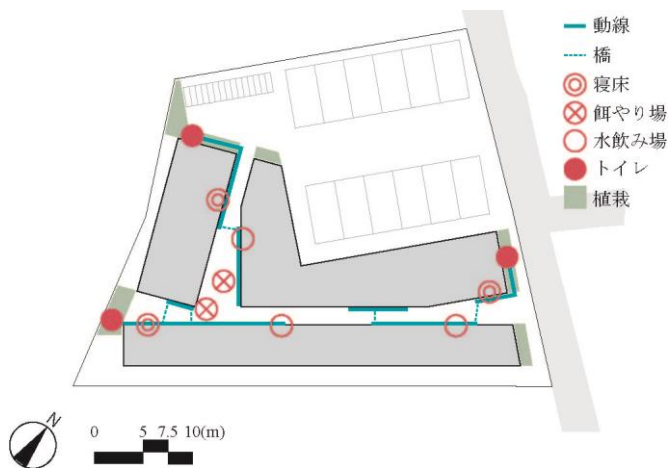


図 7. 野良猫の動線

決定した動線に沿って野良猫が移動するための道であるキャットステップを作る。キャットステップに設ける足場の幅は 2.2.猫の寸法を参照し、用途に合った幅とする。図 8 はキャットステップの一部の立面図である。

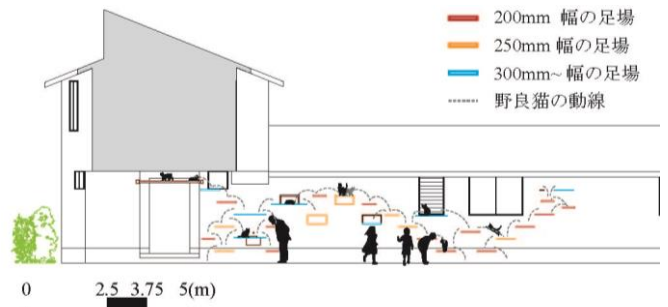


図 8. キャットステップ立面図

4.5. 空間の交差

図 9 のように人と野良猫の間にある壁を凸凹させることにより、両者の空間を交差させる。

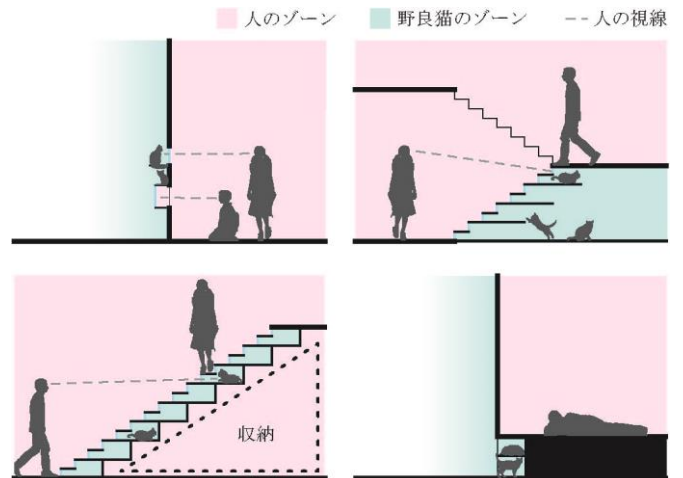


図 9. 壁の凸凹

5. まとめ

人と野良猫の生活スペースを分けつつも、所々で空間が交差することでお互いの存在を適度に感じながら暮らすことができる空間とすることができたと考えている。人と野良猫と一緒に共に住まう事のできる建物を設計することができたのではないだろうか。

参考文献

今泉忠明ほか,『建築知識特別編集 猫のための家づくり』,エクスナレッジ,2017年
 “基盤地図情報ダウンロードサービス” 国土地理院
<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php> (参照 2018-10-2)



図 10. 模型写真